



# 平成 18年 3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17年 7月 29日

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社

(コード番号 : 8113 東証第1部)

( URL http://www.unicharm.co.jp/ )

代表者 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

問合せ先責任者 常務執行役員 吉原 範純

TEL (03) 3447 - 5111

## 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無  
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

## 2. 平成18年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日 ~ 平成17年6月30日）

### (1) 経営成績（連結）の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第1四半期	62,201	3.2	5,402	33.1	5,642	31.2	2,692	34.6
17年3月期第1四半期	60,278	4.5	8,069	2.6	8,199	1.0	4,115	0.2
(参考) 17年3月期	246,050		27,284		27,978		16,381	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年3月期第1四半期	40	50	-	-
17年3月期第1四半期	61	90	-	-
(参考) 17年3月期	244	25	-	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

### (2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年3月期第1四半期	219,462	140,439	64.0	2,112	67
17年3月期第1四半期	205,725	126,764	61.6	1,906	96
(参考) 17年3月期	215,365	137,696	63.9	2,069	30

### 【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第1四半期	7,779	7,342	412	56,848
17年3月期第1四半期	2,889	4,151	625	43,788
(参考) 17年3月期	20,607	8,437	207	56,359

### [参考]

平成18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	125,000	13,300	6,300
通期	257,000	28,400	14,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 208円 44銭

上記の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

## **[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]**

当第1四半期（平成17年4月1日から平成17年6月30日まで）におけるわが国の経済は、株式市場の回復や企業の設備投資の増加などにより回復してまいりました。また、個人消費においても底固く推移しました。

このような状況の下で、当社は、国内事業環境の価格競争から価値競争への転換と、成熟市場の再活性化を図るため、主力事業分野においてそれぞれ高付加価値製品や需要創造型製品の市場投入や、積極的な販売・マーケティング活動を展開してまいりました。また海外事業では、中国やタイ、インドネシアなど東アジアを中心に、順調に業容を拡大しております。この結果、売上高は前年同期より19億円増加して622億円（前年同期比3.2%増）、営業利益は前年同期より26億円減少して54億円（前年同期比33.1%減）、経常利益は25億円減少して56億円（前年同期比31.2%減）、当第1四半期純利益は14億円減少して26億円（前年同期比34.6%減）となりましたが、直近の前年度第4四半期に比べ着実な業績の回復を図り、売上高で21億円、営業利益で2億円それぞれ増加し、当初計画通りの第1四半期進捗で推移しております。

## **セグメント別の概況**

### **1. パーソナルケア事業**

#### **ベビーケア事業**

国内では、市場価格は依然として厳しい状況にある中、販売数量の回復の兆しが見えてまいりました。

当社は、リーディングカンパニーとして、市場の再活性化と収益の回復を図るため、高付加価値製品『ムーニー』では、お試しパック企画を展開してトライアルを喚起し、プレミアム化を推進してまいりました。また『ムーニーマン』Mサイズのお試しパック企画の投入や、エコミーのパンツタイプ紙オムツで初めてMサイズを『マミーポコパンツ』から発売するなど、紙オムツのパンツ化の推進に注力しました。また、日本で初めて『おむつのデザインが選べるキャンペーン』を『マミーポコ』ブランドで展開し売上を拡大しました。

一方、海外では、中国においてプレミアムタイプ『Mamy Poko』の積極的な販売・マーケティング活動を展開し、順調に売上を拡大するとともに、その他の東アジア地域参入各国（台湾・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン）においても、積極的に販売を強化し『Mamy Poko』の売上を拡大しました。

#### **フェミニンケア事業**

国内では、生理対象人口の微減が続く中、新たな市場を創造する製品を積極的に提案することによって、市場の活性化を図りました。

生理用ナプキンでは、夜用ナプキンの機能強化によってブランド力を強化し、高付加価値成長セグメントの育成により、シェア拡大に取り組んでまいりました。『ソフィボディフィット』シリーズの夜用ナプキンでは、製品全体をより柔軟にすることでフィット性を高め、漏れ率を改善し機能を高めました。また、『ソフィワイドガード』シリーズの夜用ナプキンでは、マーケティング投資を積極的に行うことによって、ワイドタイプセグメントの

確立と成長を促進し、ナプキン市場でのプレゼンスを高めました。

さらに、昼用ナプキンにおいてもプレミアム化を推進してまいりました。スリムタイプナプキンの使用者が増加傾向にあることに着目し、ボディラインにフィットしてすき間をつくらず、経血をピンポイントで吸収する『ソフィボディフィットふわピタスリム』を発売し、積極的な広告投資と店頭プロモーションによって、『フィットするスリムナプキン』のポジションを築き、昼用プレミアム市場を創造しました。さらに、身体につけるピースとシートの組み合わせによって、漏れ率の大幅な改善を実現した第3の生理用品『ソフィボディピースセット』の普及促進を図るため、広告展開・店頭告知によってトライアルを獲得し、新たなカテゴリー創造による成熟市場の再活性化に取り組んでまいりました。

海外でも、東アジアでの展開を加速するために、高付加価値の夜用タイプナプキンを中心に積極的な販売・マーケティング活動を行い、市場拡大の加速化と『Sofy』ブランドの市場浸透を図りました。

### ヘルスケア事業

当期における国内ヘルスケア事業は、成長市場において競争が激化する中で、着実に業容を拡大いたしました。高齢化が加速する中で、中重度失禁カテゴリーにおいては、「被介護者の残存能力を維持し介護者のゆとりを創出する排泄ケア」や「認知症の特性を考慮した排泄ケア」が期待される中、社会変化を的確に捉えた新たなコンセプト製品『ライフリーパンツ用尿とりパッド 長時間座っても安心』や『ライフリーパンツ用尿とりパッド どんな姿勢でも一晩中安心』、そして『ライフリー尿取りパッドなしでも長時間安心パンツ』などを先行投入することで競争優位を構築し、売上高と収益の拡大に努めました。軽度失禁市場では、店頭における製品の視認性を高めることによって、生理用品で培ってきた「チャームナップ」ブランドの強みを活かして、失禁専用製品の使用者の拡大を図ってまいりました。

また、業務用分野においては、パンツタイプや付加価値の高いパッドを使用することによる交換回数削減の提案によって既存顧客の深耕を図ると共に、独自の排泄ケアモデルの提案によって新規顧客の獲得に注力してまいりました。さらにダイレクト販売「いきいき生活」事業では、顧客とのコミュニケーションを強化することによって新規顧客の獲得を推進してまいりました。

海外においては、台湾とタイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速し、着実な成長を遂げてまいりました。タイにおいてはケアアドバイザーを店頭に配して、紙オムツとサブパッドの併用によるデイリーコストの削減を提案し、パンツタイプ紙オムツの強化を図り、売上也順調に拡大しました。また、ヨーロッパを中心としたパンツタイプ紙オムツも順調に売上が伸長しました。

### クリーン&フレッシュ事業

当社がこれまで培ってまいりました不織布・吸収体技術を応用した製品を通じて、お客様へ清潔・安心・新鮮を提供するクリーン&フレッシュ事業では、新たなお掃除習慣を提案するシートクリーナー『ウェーブ』ブランドに集中して販売を強化し、市場の拡大を図ってまいりました。スプレー式フロアモップ『ウェーブピュピュッとモップ』では、汗や

皮脂、埃といった夏場特有のフロアの汚れに着目し、専用液を用いた水拭きによるお掃除方法を提案してまいりました。また、『アレルケアウェーブ』では、夏場のダニ繁殖期のアレルゲン対策を提案し売上の拡大を図りました。

海外では、当社がシートクリーナー『ウェーブ』のシート技術をライセンス供与し、ザ・プロクター・アンド・ギャンブル社が、北米ならびにヨーロッパ地域において販売する「スイッファードスターズ(Swiffer Dusters)」の売上は当期も好調に推移し、当社のロイヤリティ収入の増加に寄与しました。

## 2. ペットケア事業

国内ペットケア市場は、高齢化に伴うペット飼育世帯の増加等により、中長期にわたり成長が期待される有望市場であり、ペットケア市場におけるナンバーワンを目指し、連結子会社ユニ・チャームペットケア(株)を通じて事業を展開してまいりました。「付加価値市場の創造」「市場規模の拡大」「拡大市場でのNo.1奪取」を基本戦略とし、『愛犬元気 銀のさら』や『ねこ元気 銀のスプーン 毛玉ケア』、そして『ユニ・チャーム ペットケア サプリメント』など顧客ニーズにあった付加価値の高い製品を展開することによって、売上・利益とも順調に拡大しました。

## 3. その他事業

不織布・吸収体の技術を活かした業務用製品分野においては、スーパーマーケット等を顧客とする食品包材事業を中心に、業務用食品包材である『フレッシュマスター』のスーパーマーケットへの浸透強化と、飲食店ルートへの販売を強化しました。

### [ 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等 ]

総資産は前期末に比べ40億円増加して、2,194億円となりました。また、株主資本は、27億円増加して1,404億円となりました。この結果、株主資本比率は、前期末の63.9%から64.0%に上昇しました。

増減の主なものは、流動資産では現金及び預金と受取手形及び売掛金が合計で28億円減少し、有価証券が35億円増加しております。有形固定資産では、建物及び構築物と機械装置及び運搬具が合計で9億円減少し、建設仮勘定が2億円増加しております。

当第1四半期において、営業活動によるキャッシュ・フローは、77億円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益56億円、減価償却費29億円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、73億円の支出となりました。固定資産の取得による支出が40億円、他、有価証券等の取得等による支出が37億円となっております。

この他、当第1四半期において海外連結子会社(4社)が決算期を変更したことにより、現金及び現金同等物が3億円増加しております。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前期末より4億円増加して568億円となりました。

### [ 業績予想に関する定性的情報等 ]

中間期、通期ともに、当初予想(平成17年4月28日公表)と変更ありません。

(添付資料)

**(要約) 四半期連結貸借対照表**

(単位 百万円)

区分	当第1四半期末 (平成17年6月30日現在)		前第1四半期末 (平成16年6月30日現在)		前連結会計年度末 (平成17年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産	108,380	49.4	90,721	44.1	104,657	48.6
固定資産	111,082	50.6	115,004	55.9	110,707	51.4
1.有形固定資産	72,297	32.9	78,358	38.1	72,798	33.8
2.無形固定資産	2,195	1.0	2,676	1.3	2,337	1.1
3.投資その他の資産	36,588	16.7	33,969	16.5	35,571	16.5
資産合計	219,462	100.0	205,725	100.0	215,365	100.0
(負債の部)						
流動負債	60,228	27.4	60,458	29.4	59,745	27.7
固定負債	9,129	4.2	11,463	5.6	8,776	4.1
負債合計	69,358	31.6	71,921	35.0	68,522	31.8
少数株主持分	9,665	4.4	7,038	3.4	9,146	4.3
(資本の部)						
資本合計	140,439	64.0	126,764	61.6	137,696	63.9
負債、少数株主持分及び資本合計	219,462	100.0	205,725	100.0	215,365	100.0

**(要約) 四半期連結損益計算書**

(単位 百万円)

区分	当第1四半期 〔自平成17年4月1日〕 〔至平成17年6月30日〕		前第1四半期 〔自平成16年4月1日〕 〔至平成16年6月30日〕		前連結会計年度 〔自平成16年4月1日〕 〔至平成17年3月31日〕	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	62,201	100.0	60,278	100.0	246,050	100.0
売上原価	35,642	57.3	33,171	55.0	137,341	55.8
売上総利益	26,558	42.7	27,107	45.0	108,709	44.2
販売費及び一般管理費	21,156	34.0	19,038	31.6	81,424	33.1
営業利益	5,402	8.7	8,069	13.4	27,284	11.1
営業外収益	501	0.8	343	0.6	1,639	0.7
営業外費用	261	0.4	213	0.4	945	0.4
経常利益	5,642	9.1	8,199	13.6	27,978	11.4
特別利益	79	0.1	8	0.0	5,627	2.3
特別損失	115	0.2	448	0.7	5,009	2.1
税金等調整前 四半期(当期)純利益	5,605	9.0	7,759	12.9	28,597	11.6
法人税等	2,439	3.9	3,130	5.2	10,647	4.3
少数株主利益	474	0.8	514	0.9	1,567	0.6
四半期(当期)純利益	2,692	4.3	4,115	6.8	16,381	6.7

(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

区分	期	当第1四半期	前第1四半期	前連結会計年度
		(自 平成17年 4月 1日 至 平成17年 6月30日)	(自 平成16年 4月 1日 至 平成16年 6月30日)	(自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日)
		金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,779	2,889	20,607
投資活動によるキャッシュ・フロー		7,342	4,151	8,437
財務活動によるキャッシュ・フロー		412	625	207
現金及び現金同等物に係る換算差額		93	9	37
現金及び現金同等物の増減額(減少: )		117	645	11,925
現金及び現金同等物の期首残高		56,359	44,434	44,434
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額(減少: )		371	-	-
現金及び現金同等物の期末残高		56,848	43,788	56,359